



Botswana Medical Information



2018年11月

医療トピックス

※医務官レポート9月分の医療トピックス記事の訂正です。

10月中旬時点での下痢症の流行している地域をハボロネ、ノースイースト地区、カニエをハボロネ、チョベ、ジュアネンへ訂正させていただきます。大変失礼致しました。

【風疹 (Rubella) について】

2018年8月より日本の首都圏（東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県）を中心に、全国的に風疹患者数が急激に増加しています。

現在報告されている風疹患者さんの96%が大人で、男性が女性の5倍以上多く、男性患者さんの約60%は30～40歳代の男性です。また女性患者さんの約60%は、20～30歳代です。

（国立感染症研究所 風疹流行に関する緊急情報10月31日現在より）

風疹は感染者の飛沫（唾液のしぶき）などによって、他の人へうつります。症状は、発熱、発疹、リンパ腺の腫れなどが見られます。

患者さんより他者への感染性は、発疹などの症状出現の1週間前から始まり、症状出現後1週間程度続きます。

主に妊娠20週頃までの妊婦さんが風疹ウイルスに感染すると、お腹の中にいる赤ちゃんへも感染して、胎児の死亡や、赤ちゃんに難聴、心疾患、白内障などの先天性風疹症候群を生じるおそれがあります。

日本では2006年より小児期の定期予防接種として、麻疹風疹混合（MR）ワクチンを2回接種していますが、現在30歳代男性は風疹ワクチンを定期予防接種で実施する機会が1回、40～50歳代の男性はありませんでした。

なお、ボツワナでは風疹ワクチンは任意での接種でしたが、2016年に14歳までの子供を対象にした、一斉麻疹風疹混合ワクチン接種キャンペーンを実施し、現在は小児期の定期予防接種に含まれています。

予防接種を受けていない、風疹を罹ったことが明らかでない方、特に、以下に該当される方は医療機関にてワクチンの接種を検討してください。

30～50歳代の男性

妊婦の夫や家族

妊娠を予定，希望する女性（風疹ワクチンは妊娠中接種できず，接種後 2 ヶ月は避妊が必要です）

ご自身の予防と周囲の方（特に妊婦さん）への感染防止のため，また日本とボツワナへ風疹の持ち込み予防のためにも，ワクチン接種をご検討ください。

参考資料

国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/8278-rubella1808.html>

文責：高原 野草（在ボツワナ日本大使館医務官）